

今話題のVR技術を利用した新サービスを開始します！

バーチャル・モデルハウス体験サービスが7/7(土)に始動！

～販売中の物件をVR技術により実寸大・等身大で体感できます～

株式会社エルハウジング(本社:京都市右京区 代表取締役:村井 孝彦)は、VR(バーチャルリアリティ)技術を利用したバーチャル空間体感システム「ARCHITREND VR」を導入し、7月7日(土)からバーチャルのモデルハウスを3D体験できる新サービスを開始します。本社内の特設スペースにて、お客様にヘッドマウントを装着してもらい、エルハウジングの街並みと家をバーチャルで体感して頂きます。お客様への提案力を強化し購入促進を図るとともに、思い違いによるミスマッチも防止します。今回の京都市右京区梅津原町の販売物件のVR体験を皮切りに、順次体験可能物件を追加していく、販売促進の一環として運用していく予定です。

<ARCHITREND VR導入による3つの効果>

その①目線・動きと連動したバーチャル空間体験で、よりリアルな提案を実現します

専用ソフトで作成したプランが、そのままバーチャル・モデルハウスとなります。昨年3月に導入したVRシステムではスマートフォンで360度パノラマ閲覧することができました。さらに今回導入する「ARCHITREND VR」では、ヘッドマウントを着用し実際の目線でバーチャル空間を歩くことが可能です。建具の開き具合やキッチンの高さ、通路の幅、コンセントの位置など、図面やパースだけでは伝わらないリアルな使い心地や質感を、実寸大・等身大で体感することができます。

その②お客様とのミスマッチを防止し、物件購入に対する安心感を提供します

街並みや外装・内装、日当たりなどの情報をお客様自身で体感できるため、家が建った後に起こる「思っていたイメージと違う」といったミスマッチの可能性を回避する事ができます。変更不可の建売物件に抵抗のあるお客様にも、事前に完成形に近いバーチャル・モデルハウス体験をして頂くことで、安心できる判断材料を提供できます。

その③建売物件の納期短縮を実現します

内容の変更ができない建売物件では、こちらが提案する街並み(複数の住宅の外観 VR)や内装・間取りを、VR空間を使ってお客様に提示することで内容の理解度が高まり、早期契約、納期の短縮を実現します。



画像提供:
福井コンピュータアーキテクト(株)

お問合せ先

株式会社エルハウジング 広報担当:佐々木

〒615-0073 京都市右京区山ノ内荒木町7番地58

TEL 075-882-5900(代) 携帯:090-4496-5673 / E-mail:sasaki@sagano-g.jp

<参考資料>

■VR(バーチャルリアリティ)とは?

“「VR」はVirtual Realityの略で、「事実上の、実質的な現実感」という意味です。単なる虚構ではなく、「ある程度現実と同等の効果を有すること」を指して用いられます(※1)。”「ARCHITREND VR」ではヘッドマウントを装着し、作成したプランを実際に3D体験することができます。モノクロの平面図や立面図では伝わらない完成イメージを体感することができます。

■「ARCHITREND VR」とは?

「ARCHITREND VR」とは、バーチャル空間体感システムです。作成したプランがそのままバーチャル・モデルハウスとして反映され、ヘッドマウントを着用すればまるで実際にモデルハウスの中にいるような圧倒的な没入感で、バーチャル空間を体験することができます。

特性①リアルで明確な体感を実現します

抜群の臨場感で、まるでモデルハウスの中にいるような体感を味わうことができます。座る、見上げる、のぞき込む、しゃがむといった動作

を、自分の目線と動きに連動したVR体験ができるので、実際にその場に立ったときの距離感や、天井の高さなど、図面だけではわからないイメージを確認することができます。また光の入り方も確認できるので、実際のモデルハウスではなかなか確認し辛い時間帯別の採光イメージも簡単に確認することができます。また現在は各メーカーのショールームで確認して頂いているキッチンや戸棚の高さなども、「ARCHITREND VR」で確認することができます。



画像提供:福井コンピュータアーキテクト(株)

特性②CAD図面との連携により、素早くイメージ構築ができます

CAD図面(弊社使用製図ソフト)からイメージを構築できるため、別途ソフトで新たにプランを作成する手間がかかりません。コンテンツ作成に時間がかかるらず、よりスムーズで実用的な運用が可能です。

特性③ヘッドマウントを装着するだけで、手軽で快適な操作が可能となります

専用ファイルを開き、ヘッドマウントを装着するだけで簡単にバーチャル・モデルハウスを体験できます。今回利用するヘッドマウントは、VR向けヘッドマウントディスプレイ「VIVE」です。この装置は前面カメラで現実の周囲の様子が確認でき、さらに内蔵システムの警告もある為、安全に使用できます。周囲の環境を気にせず、モデルハウス体験に安心して快適に集中できます。また眼鏡をかけていても装着できる快適なヘッドマウントで、どんなお客様でお気軽に体験できます。歪みの少ない映像処理で実際にそこに居るような没入感をもって、家や街並みを確認できます。精密な360度コントローラで、行いたい動作や扉の開閉が可能です。



▲VIVE

画像提供:福井コンピュータアーキテクト(株)

(※1) MONOist HPより「「VR=仮想現実感」は誤認!? VRの定義、「製造業 VR」の現状と課題」

<<http://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/1608/30/news037.html>> 2018年6月25日アクセス。